

研究ノート

平成元年過疎地寺院調査報告を基とした関連調査(1)

河崎 俊 宏

はじめに

現代社会において過疎の問題は大きな社会問題となっている。この過疎化の波は宗門の寺院基盤を揺るがす大きな問題となっている。宗門は過疎地寺院の活性化策として宗報での全国の事例紹介や、促進を促す「元氣な寺づくり読本」などを発行しては具体例を提示して来た。今回の研究課題としては、現代宗教研究所がまとめた平成元年に発行された調査報告を基として、再調査を行い各地域の寺院を取り巻く過疎の現状をまとめる事としたい。

宗門の過疎に対する取り組み

宗門は過疎地寺院問題を昭和三十六年の宗会(第十三宗会)で、農村寺院対策について取り上げられ、次いで昭和四十年の宗会(第十七宗会)においても火急の対応が要望されている。他宗派から見ても宗門は早い段階から、この過疎化の社会問題が今後大きな問題となりうるとして、警鐘を鳴らし議論が重ねられてきた。

現代宗教研究所(以下、現宗研)が昭和三十九年に設置、「所報」一号にて「日蓮宗寺院実態調査」を調査テーマ

として取り上げている。昭和四十二年「寺院実態調査」の一環として「過疎地寺院調査」を実施し、報告を「所報」にて掲載。昭和五十八年の山梨県早川町から、昭和六十三年までの六年間にわたり継続して過疎地寺院調査が実施され、平成元年十二月八日に、現宗研がまとめた、過疎地寺院調査報告「ここまで来ている過疎地寺院 あなたは知っていますか？」を発行。山梨県、千葉県、京都府、福井県、島根県、北海道、新潟県、秋田県の実態調査が報告された。

その他にも現宗研では、「所報」で再調査報告や都市寺院調査の報告等がなされている。

今回の研究課題

現宗研がまとめた平成元年過疎地寺院調査報告も二十年以上が経過し、それ以降取り上げられた地域の過疎地寺院は現在どうなっているのだろうか、また平成の合併が全国的に市町村で行われたが、報告以後合併以前の人口統計などをまとめておく必要性和、合併後の現在状況も今後の資料としてまとめておく必要性を深く感じる。そこで今回の調査研究は、過疎地寺院調査報告「ここまで来ている過疎地寺院 あなたは知っていますか？」を基本として人工統計など整理し、現地の再調査など関連調査を行いたいと思う。

調査方法

調査方法は、出来る限り平成元年版をベースに調査方法も設定したいと考える。各データなども出来る限り同様に調査を行う。

(平成元年調査方法と同じ)

一、住職・代務者の在不在

- 二、住職寺・代務寺・無住職等、寺院経営の状況
 - 三、兼職・兼務等住職以外の就業状況
 - 四、寺族の生活状況、収入等
 - 五、後継者の状況
 - 六、寺院護持の実情、将来の見通し
 - 七、檀家の増減・移動・家族構成等、檀家の現況と変動
 - 八、教化活動に関して、過疎化以前と現在の活動状況、年中行事、信行会等
（*今回は平成元年に調査した状況と現在の活動状況を比較したいと考える。）
 - 九、調査地域内の他宗寺院の様相
 - 十、調査地域内の町勢資料等過疎問題に関する一般資料の収集と分析、地域社会の変動等
 - 十一、過疎地域寺院の過疎対策の実情
 - 十二、過疎地寺院の宗門への要望
- 調査はこの項目に添って現地における聞き取り調査を中心に進めたい。（平成元年と同様）

調査に関する留意点

- 一、檀信徒が寺院をどう見、将来をどう考えているか
- 二、若い僧侶の考え方がどこにあるのか
- 三、過疎地にあつて発展している寺院の組織形態、活動状況（平成元年と同様）

目次

- 一、平成元年調査報告地域の過疎再調査報告を含む資料に関して
- 二、平成元年調査報告を基としての現在との比較(再調査)
 - 1、山梨県 早川町「祖山のおひざもとで取り残された過密寺院」
 - 2、千葉県 多古町、大網白里町、長柄町、長生町「伝統的な法華の地に半数の無住寺、その荒廃」
 - 3、京都府 宮津市、伊根町、久美浜町「陸の孤島・丹後の寺 再生への道は」
 - 4、福井県 今庄町、多田庄村「半数の寺院に後継者がいない」
 - 5、島根県 大田市、横田町「寺院の合併、移転に活路を見出す」
 - 6、北海道 十勝・網走支庁「消えゆく開教の歴史」
 - 7、新潟 佐渡島「聖跡佐渡はゆれている」
 - 8、北海道 利尻・礼文島「最北離島の寺院はニシン漁の盛衰とともにあった」
 - 9、島根県 隠岐島「離島を守る住職たち それぞれの歩み」
 - 10、秋田県 横手市、阿仁町、その他「土着の信仰を包みこむ秋田の法華サン」

まとめ

参考資料

一、平成元年調査報告地域の過疎再調査報告を含む資料に関して

今回、基とする平成元年調査報告は、所報第十八号「特集 寺院実態調査報告Ⅰ」に過疎地域における寺院の現状―山梨県早川町―並びに寺院後継者問題―福井寺院の場合―が報告されているが、その報告を踏まえて平成元年調査報告にも生かされていることがわかる。

平成元年調査報告前や報告後に取り上げられている各地区を教区ごとにとまとめ、更に元気なお寺づくり読本で取り上げられて地区を重ねてみるにより、その後追跡調査や再調査の現状や、全くの調査対象に入っていない地区の現状をどう読み取ることができるのであろうか。

資料―1参照

資料―1から読み取れることは、

北海道教区は、平成元年調査報告（以後、元年報告）で取り上げられた北海道東部、また利尻・礼文島などの再調査が実施された報告はない。但し、元気な寺づくり読本（以後、読本）では、成功促進事例として2件取り上げられている。

東北教区は、元年報告以前に所報5号で「東北農村における信仰意識調査」報告がある。読本では宮城県が取り上げられている。

千葉教区は、元年報告に取り上げられている以外は他に報告なし。

山静教区は、元年報告以降、所報十八号に寺院実態調査報告Ⅰ「総論 戦後社会の変動と地方寺院の対応」を当時久住謙是師（現宗研主任）が報告され、「過疎地域における寺院の現状」と題して山梨県早川町における日蓮宗寺院について―その歴史的形成―を当時、身延山短期大学助教林是晋師が報告されている。同じく久住謙是師が「早川町寺院調査報告を」がなされている。

また、所報四十号には、「過疎地寺院再調査報告―山梨県早川町現地調査」を伊藤立教師（現宗研主任）が報告され、同じく同号に「山梨県身延町中富地区過疎地寺院調査 山寺から集落の崩壊をみる―とくに富士見山東麓山地を中心に―」を久住謙是師（現宗研顧問）が報告を寄せている。注意深く見ておく必要性があるのは、四十号の掲載されている中富地区の久住謙是師の調査報告は、平成の合併以降の調査報告であるという事である。ここでは元年報告の調査報告が平成の合併以降合併前と合併以後の調査データを整理しておく必要性が生じていることを示している。

北陸教区は、元年報告では佐渡島と福井県が取り上げられている。

元年報告以前の所報十八号では福井県の全県（北部・中部・南部）を対象とした「寺院後継者問題 ―福井県寺院の場合― 福井県北部・中部・南部調査報告 福井県寺院の現状―農村僻地を中心に―」を高橋謙祐師が報告されている。これらも元年報告に活かされているのである。また、読本では、新潟市が取り上げられている。

近畿教区は、元年報告が京都府の報告がなされたのみであり、また読本では奈良県が取り上げられている。

中四国教区は、元年報告が島根県の3つの地区が報告されている。

再調査として所報十九号に報告されており、読本では島根県2寺院・広島県が取り上げられている。

九州教区は、元年報告や以降の調査報告などは無いが、読本に大分県の事例が取り上げられている。

過疎地寺院の実態調査を教区別に見てみると、北関東・京浜・中部が元年以前・元年報告・元年以後にも実態調査がなされていないことがわかる。また読本に関しても同様のことが言える。

ここで、視点を変えた調査報告がなされているので、ご紹介をしておく、それは、

都市寺院調査報告である。北海道の原師（当時現宗研嘱託）がまとめた報告書である。所報の二十九号（北海道札幌市）・三十号（北海道札幌市）・三十一号（福岡県福岡市）・三十二号（福岡県福岡市）に掲載

所報四十三号の調査報告にも述べられているように、過疎地の寺院問題のみならず、都市寺院の新たな問題点も指摘されている。その傾向はすでに所報二十九・三十・三十一・三十二号に警鐘が鳴らされているのである。過疎地寺院の問題と、都市寺院の問題を今後も調査していく必要性があると感じる。

二、元年報告の再調査

1、山梨県 早川町「祖山のおひざもとで取り残された過密寺院」

この地区は、幾度となく再調査がなされているが今回は指摘されていた人口減少と寺院の過密の現状を統計的データで現在と照らし合わせて現地調査を行い再調査をまとめていきたいと思う。

*平成の合併があった地域の為、元年報告の人口推移と合併前との比較、そして現在の推移を記載することとする。

早川町および周辺の人口推移について

元年報告には、早川町をはじめ周辺地域の人口推移も昭和三十五年と昭和五十五年を対象に比較されている。そこで今回は、昭和五十五年に対してこの地域の平成合併前の人口統計と合併の地区、合併後の地域人口統計も示しておくこととする。対象となる地区は、下部町、中富町、早川町、身延町、富沢町の地区である。(資料―2)

早川町の日蓮宗寺院の住職常住率について

平成元年報告には、早川町の日蓮宗寺院の住職常住率も報告されている。

寺院名簿と事態調査での対比を行っているが、今回も先ず寺院名簿による寺院住職・代務住職・無住という統計をとって現地での事態調査を踏まえて資料としてまとめたいと思う。(資料―3)

資料―2 人口推移

*平成の合併により平成十二年の国勢調査が各地区とも合併前の数値となる。

*下部町・中富町・身延町の合併が平成十六年九月十三日合併、富沢町と南部町の合併が平成十五年三月一日合併、ちなみに富沢町と南部町が山梨県で一番早い合併となる。この為、合併後の推計人口は平成十七年の国勢調査の資料を用いる。また、現在の人口推移は合併後の平成二十一年の国勢調査の資料を添付した。

*減少率は昭和三十五年と五十五年との対比、昭和五十五年と平成十二年との対比として減少率を%で示す。

資料―3 早川町日蓮宗寺院住職常住率・早川町日蓮宗寺院住職常住率 実態調査

*平成二十一年発行寺院名簿参考

*元年報告の寺院数は教会結社が含まれていない様である。

資料一 2 人口推移

町村名	昭和35	昭和55	減少率	平成12	減少率	平成21
下部町	12,028	7,719	35.8%	5,530	28%	身延町合併
中富町	9,783	5,696	41.8%	4,477	21%	身延町合併
早川町	10,679	3,005	71.9%	1,740	42%	1,246
身延町	13,805	9,807	29.0%	8,014	18%	14,462
富沢町	6,838	5,020	26.6%	4,152	17%	南部町合併 (9,011)

資料一 3

早川町日蓮宗寺院住職常住率

内 訳	昭和55寺院数	%	平成21寺院数	%
1. 住職寺	15	60	11	44
2. 代務寺	7	28	14	56
3. 無住寺	3	12	0	0
合 計	25	100	25	100

早川町日蓮宗寺院住職常住率 実態調査 ()

内 訳	昭和55寺院数	%	今回の実態調査	%
1-1. 住職常住	5	20		
1-2. 住職不在	10	40		
2. 代務寺	7	28		
3. 無住寺	3	12		
合 計	25	100		